

今週（2月17日から2月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、資金需給的に大きな過不足は無く、日銀当座預金は概ね400兆円前後での推移となった。実質的に新しい積み期間となった週初17日は、一部調達サイドに様子見姿勢が見られたことで、出会いレートが先週末比で小幅に低下した。しかし、翌18日以降は信託銀行を含む邦銀や証券業態を中心に、取り手の調達意欲が旺盛となり、レートは強含む展開となった。出会いのレンジは概ね▲0.05～▲0.005%であった。無担保コールO/N物の加重平均レートは、▲0.02%台半ばから▲0.01%台へと上昇していった。ターム物の出会いは調達希望が強い中、オファーサイドは非常に薄く、散発的な出会いが見られた程度で、1～2Wのショートタームで▲0.01～▲0.005%のレンジで推移した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは21日に2W物(2/25スタート・3/16エンド)・15,000億円がオファーされ、7,021億円(期落ち額5,848億円)と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.100～▲0.050%のレンジでの取引となった。新しい積み期間に入り、投資家の資金調達意欲は限定的で、業者の資金調達を中心に出会いが見られていた。

SCは個別銘柄では2y403～409、5y139～142、10y336～357、20y164～171、30y59～64、40y11～12など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、在庫が若干重めになっているものの、足元ファンディングレートの落ち着きなどを受けてか、堅調に推移した。3M物は▲0.132～▲0.127%、6M物は▲0.160%、1Y物では▲0.160%近辺でのまとまった出会いが見られた。

18日に実施された短国買入オペは前回比マイナス2,500億円の、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.005%と、無難な結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.143～▲0.140%で出合う中、平均落札利回▲0.1465%、按分落札利回▲0.1436%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.160%出会いと堅調に推移した。

21日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.135～▲0.133%で出合う中、平均落札利回▲0.1285%、按分落札利回▲0.1216%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、食料品、鉄鋼、卸売、不動産等の複数業態でまとまった額の調達が散見され、週間発行総額は1兆700億円程度と償還額7,600億円程度を上回った。市場発行残高は、先月1月30日に22兆8,000億円台とリーマンショック後の最高残高を記録したのち減少に転じ、先週は22兆2,000億円台で推移していたが、今週に入り再び増加傾向となり20日には22兆6,300億円台に到達した。来週の月末発行次第では、先月の最高値をさらに更新する展開も期待される。発行レートについては、足許の市場残高の増加に伴い、マイナスレートで積極的にCPを購入する姿勢は後退し、全般的に上昇している。残高が多い銘柄等ではa-1格以上の優良銘柄でも浅いプラスレートの決着が散見された。

18日にはCP等買入オペが3,500億円でオファーされた。結果は平均落札レート0.000%、按分落札レート▲0.001%と、前回(平均0.002%、按分▲0.001%)比で平均レートは低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/17(月)	23,523.24	△0.040	109.81	△0.025	△0.090	4,000,200
2/18(火)	23,193.80	△0.055	109.75	△0.018	△0.098	4,001,200
2/19(水)	23,400.70	△0.050	110.05	△0.017	△0.062	3,984,600
2/20(木)	23,479.15	△0.045	111.20	△0.016	△0.067	3,979,700
2/21(金)	23,386.74	△0.065	112.05	△0.016	△0.077	3,986,300

来週（2月25日から2月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
2/24 (月)	振替休日			
2/25 (火)	1月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 12月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			12月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 2月の米CB消費者信頼感指数
2/26 (水)		流動性供給 5,000億円 2/27発行	交付税借入 10,500億円 3/6借入	1月の米新築一戸建て販売件数
2/27 (木)	滋賀県金融経済懇談会において片岡審議委員講演 決済の未来フォーラムにおいて雨宮副総裁講演			10-12月期の米GDP改定値 1月の米耐久財新規受注
2/28 (金)	1月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 1月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 1月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 1月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 1月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 47,400億円 3/2発行	2Y 20,000億円 3/2発行	1月の米個人所得・消費支出 2月のシカゴPM景況感指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/24 (月)	振替休日								
2/25 (火)	▲ 100	▲ 800	▲ 900	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 5,800 ▲ 200 ▲ 100 100	11,500 7,000	12,500	11,600	TB3M発行▲44400償還43200 国有林野借入▲1000償還1000
2/26 (水)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
2/27 (木)	▲ 2,000	▲ 4,000	▲ 6,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 5,000	流動性供給▲5000
2/28 (金)	▲ 500	7,700	7,200				0	7,200	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,600	4,900	1,300	—	▲ 6,000	19,500	13,500	14,800	

2/25は日銀予想、2/26以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給上の大きい過不足要因はなく、引続き堅調な地合いが予想される。レボ市場は、GC T/Nは、業者の資金調達に加えて、一部投資家の資金調達も入る可能性も考えられることから、▲0.100～▲0.040%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、26日に短国買入オペのオファーが見込まれ、28日に3M物の入札が実施予定となっている。入札は前回比3,000億円増発の4兆7400億円での発行となり、レート水準など、市場動向が注目される。CP市場は、月末週に当たり、活況なマーケットになることが予想され、残高がどこまで伸びるかに注目が集まる。発行レートに関しては、引き続き0%近辺が中心レンジとなりながらも、期内物や発行残が積みあがった物については僅かなプラスレートで決着する展開も予想される。

主要なイベントとしては、海外では27日に10～12月期の米GDP改定値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入